

Investigation Report on Chinese

(2)

(134)

昭和二十一年三月

華人勞務者者調查報告書

三菱高島礦業所端島坑

Duplicate
copy

Mitsubishi
Takashima
Mitsubishi

華ハ勞務者就勞願未書

一 概要

一 事業場及関係者
戰時中當事業場ニ於テ日鮮ハ勞務者ニ依リ概ニ充員スルニ華ハ就勞ヲ必要トス事情アリシモ三菱長崎造船所ハ華北勞工以テ充員スルニ於テ募集移入セシ華勞ノ内務省外事課日清理事官ニ依リ華北ニ於テ適指シテ受ケ秋葉(保廣)警察部長及中村(博正)外務省長ヨリ當所ノ難島ニ在リ關係等考慮シテ既ニ就勞中ノ出向ノ必要ニ依リテ該華勞ノ受入方ヲ強要スルニシテ從テ華勞勤勞令(昭和二十年七月三十一日)及縣外事課並ニ華勞ヲ引率未坑ニシテ華北勞工協會職員(日京一名)並ニ直接之ニ當リ事業場例トシテハ寮長其他係員ヲ配置管理事ヲケシメタリ

二 事業場概要

石炭採掘ヲ目的トシ礦山ニシテ坑内ニ於テ石炭積込運押其他ノ后山トシテ補助的業務ニ従事スルモノナリ而シテ當事業場ハ昭和二十年七月三十一日

西日三直リ空襲爆撃ヲ受ケタル處及堂所破壊セシ坑内作業ヲ停止スルハ全ク
ナキニ至リ(附要一)

三 華勞関係者

(1) 華勞関係者 總テ政府ノ指示ヲ遵守シ華勞者ニ日鮮人勞務者ニ對シテ
同様ノ態度ヲ以テ接シ特ニ民族性並ニ慣習等ノ特性ヲ充分考慮スルニ
誠ナキヲ期ス

(2) 関係者配置状況 駐外事務所ヨリ派遣セラル官憲寮内ニ常駐シ其ノ
會ヨリ派遣セラル日系指導員、華人指導員ト共ニ主トシテ其ノ管理ニ當
事業場側トテ宿舍ニ於テ寮長トシ係員若干名、職場ニ於テ各作業
所主任及係員若干名並ニ指導員(日系先山)ヲ配シ之ヲ管理ヲ助ケル

(3) 華勞ノ勤勞管理
寮任、駐派遣常駐官憲並勞工協会職員主トシテ之ニ當リ事業場側寮長
其他係員ヲ助ケ

(4) 移入及送還時ニ於ケル職員附添状況
移入ニ際シテハ三妻長崎造船所之ニ契約ヲシテ名ニ付華北ヨリ下関迄ハ
明ナリ下関ヨリハ事業場職員係員及医師計十二名官憲六名
附添ニ當リ送還時ニ於テハ係員一名佐世保收容所迄之ヲ附添送還
ル(附表二)

二 移入配置及送還事情

一 概要 移入及送還中何事事故、発生ヲ認めズ

配置中起リタル事故在、如シ

11) 入坑拒否事件 当初華勞全員ニ長崎造船所就労予定ナルモ、
ニ依リ炭坑ニ轉換セラルヲ不滿トシ入坑拒否(約半数)ヲナス
關係々員、誠意アル説得ニ依リ即日決定シ入坑ヲ承諾ス

12) 死亡者十五名、私症病者八名、公死六名、司法処分中病死一名

13) 帰國 五名、身体虚弱就労ニ堪ヘザル者(当局ノ指示ニヨリ)

14) 犯罪入獄三名、傷害一名、傷害致死一名

(附表 三)
(附表 七)

二 移入状況

(一) 概要

昭和十九年五月下旬ヨリ向フニテ年、期限ニテ供出セルモノニテ華北又ハ日本ニ於
ケル経済状況ノ著シキ変化並ニ豫見シ難キ事情發生ノシテ該等條件ノ嚴重ニシテ
処理困難トナリタル時ハ華北労働協会及事業場協議上之ガ調整ヲ圖ル
(2) 当坑引継後(下園ヨリ)ハ何等發生セル問題ナク移入完了ナリ
(移入費ニ付イテハ双子参照)

(二) 募集状況

(1) 契約人員 二〇四名

(2) 募集地 華北

(3) 募集機関 華北勞工協會

(4) 募集方法 一般供当

(5) 募集側 干興十ノ

(三) 応募者ノ素質

(1) 年齢 最高 五十三才 最低 十六才 平均 二十八才

(2) 出身地 河北省 一八二名 山東省 二一名 河南省 一名

(3) 家族関係 独身 九八名 有家族 一〇六名

(4) 職業 商業 三名 農業 一九名 保安隊 一七名 其他 三七名

(5) 省略

(6) 移入当時、身体検査ニ依リバ總員二〇四名中健康者一五六名(其他別表、如左)

(7) 教育程度 日語ヲ解スル程度 一〇名

華文ヲ解スル程度 一八四名

不就学 一〇名

(四) 現地ニ於ケル応募者、給與訓練ハ不明ナリ

輸送状況

華北勞工協会ヨリ日華指導員各一名附添ヒ下関ヨリ受入側既員又一名及官憲六名附添ヒ食事ハ協会ヨリ持参セル饅頭ヲ支給 身体虚弱者数名アルモ其等ノ救済ナシ

(六) 上陸港受入状況

事業直接上陸ス

三 配置状況

(一) 概要 当初三菱長崎造船所ニ配置ノ予定ナルモ縣ノ方針ニ基キ当端島坑ハ配置

ニナリタルモノニシテ途中作業場轉換ノ為メ華勞二名ノ北母道へ轉入ス

(二) 事業場受入状況

(1) 宿舍三棟並ニ風呂場ヲ増設ナシ華語ヲ解スル係員ヲ配置受入態勢ニ萬全ニ期ス

(2) 受入時ハ糶、配給ニヨリ無償ニテ饅頭(米、粉)及粟其他副食物ヲ支給ス

(3) 受入直後石炭、タオル類ヲ直ニ支給渡勞回復ノ為メ三日間休養ヲナシム

(4) 元来三月程度ノ訓練ヲ実施スル予定ニシテ訓練実施ニ着手セル處際訓練クニシテ

富坑實情上軍調ニ過ケルヤノ虞アルヲ以テ警察指導員現場察合義ノ上主トシテ

体操遊戯日語教育坑内模倣作業訓練ヲナス傍七月以降軍時同ノ坑内見學定

習ヲナサシム、
作業用具等ノ日語ヲ解シ健康ヲ増進シ内地居民ニ対スル予備智識ヲ得テ幾分の安

(三) 中間異動

(1) 中途轉入ナシ

(2) 中途轉送二名但シ作業上轉換ノ夕々北海道地境組事業所ハ

(3) 事故ニ依ル減少

公死六名 私症死八名

司法處分二名(内一名病死)

身体虚弱ノ夕々歸國二名

四. 送還状況

(一) 概要 送還一八三名(指導員一名ヲ含)

残留丁シ

送還途中(佐世保收容所ニ於テ米進駐軍ニ引渡ス)事故發生ヲ認めズ

(二) 送還時給與状況

縣側ノ指示規程ニヨリ送還時ニ當リ被服上下ニ着セシツ一着地下足袋一足 軍靴一足

各袋靴下等(乗船地ニテ更ニ服一着支給)

糧食十日分(上陸地點迄分)其他賃金ハ内務省令ニ基キ支給ス

(三) 輸送状況

會社船ニ依リ乗船地佐世保收容所迄係員一名附添ヒ輸送ニ當ル收容所ニ於テ

米進駐軍ニ引渡シクルヲ以テ其ノ後ノ状況不明ナリ

輸送中ハ勿論食糧ヲ充分支給シ船待期間ハ乗船地宿泊所ニ宿泊セシム

(四) 残留状況 残留十丁

三 貧入救護及關係事務

一 概況 全國的物資不足、折柄華勞ニ満足セシメル程度ノ支給ハ不能ナルニ大體
食糧等ハ概、指示ニテ確實ニ支給ス從ツテ其ノ不足ニ基因シ或ハ医薬等、
死亡ニテ死七 疾病ヲ登ル様ナトナシ 日鮮人ニ比ベ待過不官 莫ナシ
寧口一部日鮮人ヲ稍々優遇セシ程度ニシテ華勞ニ對シ在待等ノ事
實ハ皆甚ナリ

二 宿泊施設

(一) 概要 宿舎ハ日鮮人同様ニシテ長業整理ヲ實施セシメタルニツキ其ノ掃掃
態年ハ良好ナリ從ツテ疾病ヲ蔓延シメ或ハ健康ニ影響ヲ及ボス
死者ヲ増ス年ノ下皆甚ナリ

(二) 宿泊施設

- (1) 二階建 三棟 總年數 一九四四年
- (2) 娛樂室 及 食堂アリ
- (3) 晝餐 一人當一枚
- (4) 夜遣 風呂場 炊事場等アリ

(三) 暖房設備 (四)

(四) 薪カヲ等 自由ニ使用セシム

三 被服事情

(一) 概要 全國的物資不足、折柄衣類ノ支給ハ不能ナルニ大體
ニ支障ナキ程度支給シ日鮮人ニ比シ充足ニ支給セリ(未詳切符等々苦心ナリ)

(二) 寢具

(1) 就債方法一人多借一枚以上は不可なり

(2) 冬一敷布圍一枚毛布三枚 夏一敷布圍一枚毛布一枚貸出

尚婦人会幹後は修了其のサヲ渡シテ入一校迄支給ス

(3) 被服上下二着 冬ソコト下一着外冬ソコト一着、作業服(作業道共一式共)三着
其也手拭靴下褲 日常必需品等一切ヲ支給ス

(4) 雜費八日鮮人同様に毎日石炭三個産紙若干糸針五若中支給ス

四 倉糧事情

(1) 概要 健康保持又作業從事上必要量ヲ縣ノ指示ニテ確實ニ支給ス

或半後期ニ同様に

(2) 支給状況

(1) 政府指示ニ依リ割當配給ヲ受

主食 小麦粉 粟 米粉 米
副食 肉類 豆类 野菜 (特に馬鈴薯ヲ給ス)
調味 塩味噌 醬油 油

(2) 油 ニニノ蠶肉等優先配給ヲ受 特ニ嗜好品ノ入手ニ努力ス

(3) 調理

(1) 調理ハ華勞自ラ之ニ由ル

(2) 従フテ總テ華勞向一調理ス

(附表)

五 医療衛生事業概況 (別所病院調査通) (二子参照)

(附表七) 疾病統計 (附表一八) 傷害統計 (附表九) 死七者調査

(附表一〇) 不具痲疾者調査 (附表一三) 公傷病者調査

(附書二) 死七概末書又死七診済書綴

(附書三) 公傷類末書綴

(附書四) 不具痲疾類末書綴

醫療衛生事情

一、疾病障害原因 ① 外傷トシテハ(附表七)ニ示ス如ク挫創打撲傷擦過傷及滑倒創最モ多数ヲ占メ之等ハ主トシテ作業中ニ負傷セルモノ多ク又輕微ニシテ放置セシ爲メ潰創ヨリ化膿セシモノ多数ヲ認メタリ其他凍瘡疥癩癰等モ多数ヲ認メタリ

② 内科的疾患トシテハ感冒氣管肺炎胃腸炎等モ多ク風度ノ關係食物ノ変化等モ多少影響セルモノ如シ其ノ他特ニ認ムヘキモノナシ

③ 不具者及一此之者ノ主ナル原因トシテハ前者ハ作業中硬炭車等ニ負傷セルモノ多ク一名トホムノ繼発セル左眼再膜潰瘍ノ爲メ視力障害ヲ貽セルモノアリ後者ハ業務上死亡者六名中三名ハ心臟麻痺一名ハ本人ノ不注意ニヨリケリシヨリ過リ墜落一名ハ落硬一名ハ炭車ニ挟マレ負傷シ治療中死亡シ私症死亡者ハ八名中三名ハ肺炎一名ハ肝硬化症一名ハ膽囊炎一名ハ慢性腸炎二名ハ急性心臟麻痺ニテ死亡セリ

榮養生調症ハ別表醫療衛生施設ノ項ニ記載セル如ク受入當時有疾病ノ外四名體質薄弱者ヲ認メタルモ次第ニ恢復セリ



三三三
株式會社

高島礦業所

⑤ 柳病ハ殆ニトナク下府三名尿道淋ニ名ヲ認メタルモ之カ原因トシテ失明シタルモノナシ

⑥ 醫藥衛生施設ニ就テハ別紙ト重複スルニヨリ省略ス

⑦ 衛生狀況①腸チフス豫防注射ヲ春秋ニ季ニ施行シ近地流行時ニ時々臨時ニ種痘

注射ヲ勵行セリ②入浴洗濯ヲ勵行セシメ受入當初ヨリ皮膚病多數ヲ認メシニヨリ

硫黄液ヲ設置シテ治療及豫防ニ努メシメタリ

醫療衛生施設

端島病院

一、診療科目

内科、外科、眼科、皮膚科、耳鼻喉科、産婦人科、齒科

二、主要診療施設

各科診療室、外科手術室、試験室、レントゲン設備室

三、入院設備

病床数 普通病室 三三六、特別病室 二五、計 六三

四、従業員

医師三(二名在任)、歯科医師一、薬剤師一、代診二、調剤員二、産婆二、看護婦八名、同見習六名、雑夫二、計 二七名

五、過去一ヶ年間一日平均患者数 外来一日平均 二七一名、入院患者一日平均 十四名

六、一ヶ年間死亡者

昭和十九年度 七十八名 (業務上 十四名、内華人 六名、業務外 六十四名、内華人 三名)

昭和二十年年度 七十一名 (業務上 六名、内華人 四名、業務外 六十五名、内華人 五名)

七、法定傳染病患者 九名 (華人 一)

八、春秋二季ニ腸チフス豫防注射ヲ施行シ、其他流行時ニ臨時豫防注射種痘等ヲ

勵行セリ。

備考

一、華人診療就ラハ受入當初ハ毎日午後ヨリ出張診療セシモ施設其他ニ不便ヲ感セシ為メ別ニ診療時間ヲ設ケテ一般患者ト別ニ診療スルコトニ変更シ其ノ都度察監及通訳ニ引卒通院セシメタリ。

二、華人診療時間休業者自午後一時至午後三時就業者午後七時至午後八時但シ新患ノ負傷者、急病者ハ隨時来院又ハ往診セリ

三、一日平均患者

外来 一日平均 十六名

入院 總 數 十三名

四、死亡者 十四名 業務上 七名 業務外 七名

五、法定傳染病患者 十三名

中國人身體檢查結果表 東京島崎時端島病院

検査總人員 二〇四名

健康者 筋骨薄弱者 一五六名

輕度疥癬 其他皮膚病者 二〇名

有疾病者 中乙Aニ屬スル者 一八名

乙Bニ屬スル者 一〇名

註 付號ハ健康等級ヲ表シ甲、乙A(合格)、乙B(治療上再検査定)丙(不合格)ニ分ツ

有疾病者 病名氏名左ノ如シ

乙Bニ屬スル者

病名	氏名	年齢	備考
慢性骨質減少症	張樹林	52	良好ニ經過スモ五週間以テ要ス
慢性氣管炎	陳作郷	45	全五週間以上ヲ要ス

株式會社 高島礦業所

肺	浸	潤	孫炳起	31	全参商月以上ヲ要ス
"	"	"	徐秀竟	34	"
"	"	"	張連科	19	"
脚	氣	王景波	21	全武商月以上ヲ要ス	
腎臟炎兼肝脾肥大症	張增壽	20	良好ニ経過スモ約参商月以上ヲ要ス		
腎臟炎尾節助骨折	孫洪繼	41	全武商月以上ヲ要ス		
両耳難聴胃カタル	趙九成	41	胃腸病ニ過期ニ至リ見込ナシ		
アミール赤痢?	陳廷廷	17	三週間ヲ要ス		

乙Aニ屬スルモノ、内疾病異狀者

病名	氏名	年令	備考
西足背火傷	高樹明	50	二週間ニテ治癒見込
疥癬(重症)	王明順	34	"
気管支炎	王樹海	22	參週間
"	李樹芬	23	"
"	張培林	29	"
"	干連生	16	"
"	陳耀增	27	"
マラリア	崇振文	23	二週間但ニ根治マデ二月ヲ要ス
"	任慶林	25	"
"	仲振文	23	"
"	何深	25	"

三菱礦業

高島黄炭所

喘	息	胡	任	三	34	參週間
尿道	淋	李	金	聲	17	"
"	"	楊	洛	五	38	"
右肩部、骨通、鈍創、三角、 右上方機能障害	張	長	義	17	治療見込ナシ	
右前胸第二肋骨骨折	張	大	禎	49	參週間	
肋膜肥厚症	簡	維	新	22		
トラスホーム	張	壽	圖	34		
"	王	德	金	38		

體質薄弱者

孫	秀	林	18	身長	161	體重	43斤	胸圍	75厘米
候	琴	敬	19	"	150	"	44	"	76
候	云	仲	35	"	176	"	53	"	82
蘇	福	永	18	"	153	"	44	"	74

備考

中間期終戰頃一般栄養状態良好トナリ平均体重五磅ヲ增加セリ



株式會社

高島硯業所

長崎八

六

慰安施設

(一) 概

要 施設不足、折衷分、言ハカシテ事情、并ニ限リ慰安施設ヲナシ特ニ往來、料理屋

(二) 音機

等、出入り自由ニセム
音機、ヒホン、遊機等、設備シテ利用セム

(三) 慰安施設ノ状況

音機、ヒホン、遊機等、設備シテ利用セム
映画、毎月一四、五、慰安祭、中秋、節、祝賀、其、他、食事中、羞人、憶、會、等、ヲ
嗜好品(酒、煙草)等、毎月十日、鮮人、同、様、量、支、付、ス

(三)

特殊慰安

終戦後ニ於テ、料理屋等、出入り自由ニシテモ、性病等、發生シ、治メズ

四 勞務支給與事情

一 概要 日鮮人。比シニ分一程度ノ勞働ニ從事セシメ賃金等ハ政府ノ指令ニ從
ツテ支給セラレタルヲ以テ當時。賃金トシテハ寧ろ日鮮人ヨリ好條件ナリ(三子参照)

二 勞務事情

(一) 概要 日鮮人ヲ安易ニ作業ニ從事セシム(三子参照)

(二) 勞務配置

- (1) 配置場所ハ坑内各所ノ作業場
- (2) 充填掘進化標日換等ノ意向
- (3) 身体虚弱ノ多ク坑内就業不能者ナリ(三子参照) 坑外掃除夫或ハ炊事夫トス

(三) 勞務組織

- (1) 總隊長(正副) 中隊長(正副) 班長(正副) 班員
- 外ニ炊事長、下ニ炊事班ヲ置ク
- (2) 日鮮人ノ勞務組織トシテ完結ナリ

(四) 作業状況

- (1) 作業様式ハ一部請負制トシテ大部命令定額賃金制ナリ
- (2) 二交代制ヲ實施ス
- (3) 勞働時間ハ十時間
- (4) 作業日數一月約二十六日(休業四日)トス
- (5) 稼働率九〇%

- (6) 作業能率の別表、如し
- (7) 一般の勤務状況良好ニシテ怠慢休業の割合ニシテ
- (8) 日鮮人ト、作業能率、比較、作業種類ニ依リ相違見テ怠慢ニ要スル作業の約四十%以内ニ制限ナキ作業の約六十%程ナリ

三、給與待遇 (ニ子參照)

(一) 概要 給與ハ政府指令ニ基テ正當公平ニ支拂ヒ日鮮人ニ比シ稍好條件ナリ

(二) 給與制度

- (1) 給與ハ總テ政府指令ニ基テ支給ス
- (2) 給與ハ大體定額制ニシテ一般日給五円(外別表參照)ノ割合ニ同種ナリ
- (3) 領金ハ現金ニテ支給シ含量ハ現物給與ニ尚且療養宿舎費ハ支給ス
- (4) 基本給ハ指令ニ依リ一般一日五円、總務長ハ三割、中隊長ハ二割、上等兵ハ一割ニシテ、大隊長當人賞與等支給ス
- (5) 日鮮人ニ比シ官母下

(三) 給與状況

- (1) 原簿ヲ移入シ給與ハ不規則著山後數月迄割俸日、延滞、積金ニ月ヲ支給ス
- (2) 寂勞期間中ハ基準量五円(別表參照)
- (3) 終戦後給與停止後ハ送還日迄平均領金、六割、支給ス

- (4) 送還時別に債金支給ヲ十ヤハルモ上陸地迄ノ食糧(約十日分)ヲ支給シ外毛布一枚宛洋服三着軍靴其ノ他別表ノ如ク支給セリ
- (5) 政府ノ債金決定遲ク多ク送還時同同時ニ支給但ニ毎月小使トシテ必要十金額ヲ支給セリ
- (6) 給與ニ付テハ収率不平等トシテ受領セリ

四 生計状況

- (1) 隊入總額 一人平均一般一八〇〇円 總隊長三六三〇円 中隊長二七〇〇円
- (2) 積立金 十シ
- (3) 送金 一九三四二〇円 (寄託金) (送金合計)
- (4) 現金支給額 一三〇〇円 (内板金ヲ含ム)
- (5) 支給現金ハ日用品ヲ購入スル程ナリ
- (6) 積立額 (預貯金等) 昭和二十年三月債金規定決定以後ハ会社等ノ金トシテ預入ル

總額三七一〇七・一九〇 (利子二二四四三圓)

五 華勞ノ態度及事業場態度

一、概況 華勞ハ日時経過スルニ從ヒ協力的態度ヲ示シ事業場側又華勞ノ實習等ヲ考慮シ政府指示ニ從ヒ之ヲ指導又從テ終戦後トスヘドモ事故發生皆無

二 華勞ノ態度

(一) 概要

移入輸送中ハ只不安ノ氣持ヲ以テ終戦別ニ表現セシタル態度ナル受入直後
事業轉換ノ爲メ入坑拒否等幾分不平ノ態度アリタルモ其後係員官署等好努力ニ
依リ安定感ヲ抱キ増進ニ協力的態度アリ終戦後ハ幾分驕リタル態度アリ
リタルモ全般的ニ明朗ニシテ一部ニ於テハ殘面ヲ希望セシメタルモ一般的
ニ懐シイ帰云テ樂シムル状態ナリ

(二) 生活組織及生活態度

(1) 生活組織トシテハ全員ヲ四中队ニ編成シ總隊長 中隊長ヲ置キ配置其ノ
他石炭ニ在リ隊長ヲ通ジテ行ヒ特ニ終戦後ニ於テハ隊員中ヨリ週番制
ヲ設テ事故發生防止生活改善等當ル

(2) 作業ニ當リテハ一部怠慢者アルモ概シテ熱意ヲ以テ之ニ當ル

(3) 宿舍ニ於テハ自治的生活ヲナシ居リ一般的ニ明朗ナル寮生活ヲ樂シム凡テ

(三) 思想動向及要項事項

(1) 華勞中現日共産分子ヲ認めズ

(2) 思想動向トシテハ特ニ注意スベキ者ナシ

(3) 食糧衣料ニ附テハ先令トハ主ヘザルモ全國的物資不足ニ加ヘテ衣料切符ナキ爲
ニシテ政府指令ニ依ルモナル定ヲ納得諒解セシメタルヲ以テ一般ニ不平要望
事項ナシ

(四) 不法行爲

(1) 幹部政選ニヨリ左選サレタルヲ不滿ニ思ヒ興奮ノ余リ傷害ヲ加ヘタルモノニシテ他ノ
一ハ内地人指道員ヨリ此責政打傷害ヲ認メズサレタルヲ遺恨ニ思ヒ復讐的ニ
傷害ヲ加ヘタルモノナリ

(2) 傷害一件 傷害致死一件

(5) 日人被害一名 華人被害傷者三名 被害致死日人一名
警察部官憲常時駐在ニ常ニ不法行爲ノ防止取締或ハ座談会等ニ
依リ意志疎通ヲ圖リ事故發生ヲ未然ニ防止ス

(五) 終戦後、紛争事件

- (1) 終戦と同時に就業ヲ停止シ食糧ノ増配等ニ留意シタマヘ一部驕リタル態度ノ者ニ見受テ名モ一般的ニ感謝的熱度ヲ示シ注意スベキ矣ヲ認メズ
- (2) 稼働停止指令 昭和二十年八月二十四日 (離島ノ為ニ遅延ス) 昭和二十年八月二十四日 (北支ハニヨリ戦災為メ作業不能トナリタルメ稼働停止ス)

(3) 終戦後不當要求ナシ不法行為ノ不穩行為等ノ發生ヲ認メ尙華勞通商管制ニ依リ自治的ニ之ヲ抑制取締ニ当ル

三 華業場 例、態度

(一) 概要

華勞取扱ニ就テハ數指示通り履行特ニ嚴ク警察官(三名乃至二名)常駐受入後五ヶ月間ニ互リ數回(其後適宜肉體)肉體係員及勞務者ノ會合ヲ用キ酷使ノ虐待等ノ無キ様注意タリコリ事件發生ヲ見ガ因ニ華勞ニ對シテ不親切な場合常駐警察官該ホ人ノ宿舎へ召換嚴重説諭ヲ加ヘタルニヨリ日華間ニ事件發生ヲ見ガ

(二) 契約履行状況

移入契約及取付側同位指示事項ハ之ヲ嚴重履行ス

(三) 華業場ノ華勞取扱

取扱方針トシテ前記記載通り及常駐警察官ノ指示通り懇切ニ指導ス

2 取扱上問題トナシモ是トシ

3 受入前並ニ受入後數回一般従業員ニ対シ華勞移入事情ヲ説明シ之ハ
愛護協調スルキ旨ヲ懇示セシ外周縁々員・労務者ハ會合華勞ト

融和ヲ計ルル事ヲ指示シ依テ鮮人ハ華人ト隔離シ宿舎ノ出入ヲ禁ズ

4 華勞ノ横習等ヲ考慮シ日鮮人ニ比シ寧ロ穩和モ態度ヲ以テ接ス作業

ハ日鮮人ニ比シ安易ナル作業ニ從事セシム

5 空襲時ハ防空壕ニ避難セシメ事故ノ絶對防止ニ努メ常ニ係員指導

員ヨリテ動搖不安等ナキ様努力セシム

6 華勞取締ニ官憲並ニ日華系指導員之ニ當リ係員補助ス

(四) 事業場ノ給與上事故全クナシ

(五) 對華勞不法行為ハ附表一八參照

(附表一六) (附表一八)

六 就労、成果及影響

一 概況

着山当時不練、爲能率揚ラス、漸次向上、途上ニ有シモニケ
 年、期間中一年一ヶ月就労セシノ、十九爲其、成果ハ揚ブルニ至ラ
 不寧口爾後ニ期待ニ倍ナリ

二 具体的成果

- (一) 概要 戦時勞務不足ヲ後分補ヒ得ナリ
- (二) 具体的成果

(1) 作業期間

自昭和一九、七、一
 至昭和二〇、七、三一

(2) 作業人員

百八十四—百五十四

(3) 作業量

採炭量一人一日七トン
 充填量一三トン

(4) 増産

不明

(5) 日鮮人ト比較

日本人ニ對シ 五十%
 朝鮮人ニ對シ 六十%

(別表十九)

(三) 就芳の響

概要 移入当初は吉詰慣習等、相違は依り事業場内外其住民は
幾分不安恐怖、念に與へるに漸收り日本人華方兩者、氣分の融和成
り相互に了解せしむるに能く或るべき影響を認めざるは、不
可為に孰しに警察當局及び役員、適切な処置を一般に大に影響
を及ぼす詳細は別表参照す

(附表二) 附書 五

(附表二) 事業場概要

種別	名	稱	所	地	電話	交通	業務	記 止 年 月 日
三菱炭	三菱炭業株式會社	三菱炭業株式會社	埼玉縣大宮市池袋十六番地	不明	東京一六五六	東京驛	礦業	昭和五六年
三菱炭	右ニ合シ		東京都麩町區丸ノ内二丁目四番地	東京一六五六	東京驛	〇五料	礦業	昭和五六年
三菱炭	三菱炭業株式會社	三菱炭業株式會社	長崎縣西彼杵郡高浜村南	高島五番	長崎港	〇五料	礦業	昭和五六年
三菱炭	三菱炭業株式會社	三菱炭業株式會社	右ニ同シ	高島五番	長崎港	〇五料	礦業	昭和五六年
三菱炭	三菱炭業株式會社	三菱炭業株式會社	右ニ同シ	高島五番	長崎港	〇五料	礦業	昭和五六年

附表

個人別勞經過調查表

氏名	素負	移	入	中間興動	送	還	返(和三年)	事	備註
郎自由	23	河北省護國軍	保定	三月華北協工會					
徐貴祥	32	山東省即墨縣							九年四月
薛弘林	26	河北省深澤縣							
任慶林	26	河北省高邑縣							
王香亭	21	河北省鹿泉縣							
宋文斌	24	河北省保定							
王石生	45	北京市							
王景波	22	河北省河多定							
孫洪維	49	河北省白王村							
張德山	78	河北省陽道村							
程明德	78	河北省程城							
孫治平	50	河北省血村							
何琛	26	河北省李滿村							
王慶綱	35	河北省辛辛鎮							
陳增增	28	河北省陳治村							
尹會川	25	河北省北霞村							
趙福義	31	河北省磨房村							
王小孩	22	河北省五龍塘							
劉小多	25	河北省趙八村							
邱斌如	27	河北省黃梁村							
合計									

(備註) 本表二、八、初、受、入、者、外、中、途、退、入、者、較、口、者、死、亡、者、亦、一、度、等、事、場、三、次、以、內、只、計、二、基、現、處、日、東、給、出、者、多、凡、一、切、不、合、

個人別勞務經過表

氏名	年次	出身地	職業前歴	訓練地	移住地	移住理由	移住時期	移住期間	移住後の職業	移住後の収入	移住後の生活	備考
徐自安	30	河北省天長縣	雜貨商	華北	不	不	不	不	不	不	不	
劉大復	22	北平	農業	華北	不	不	不	不	不	不	不	
王樹堂	19	黃埔										
張連庄	23	清輝頭										
杜振亞	36	山東省濰縣	金剛山小學教員									
劉玉田	43	東街	農業									
王之起	32	河北省東安縣	小學教員									
劉四起	29	王庄	商人									
李福臣	26	齊二庄	雜貨商									
李振山	22		農業									
陳鳳來	25	山東省德縣	小學教員									
陳作卿	46	陳三庄	小學教員									
高建堂	43	橋口	小學教員									
宋庄如	43	河北省阜城縣	雜貨商									
徐秀寬	35	十橋庄	農業									
王鈺德	35	山東省濰縣	農業									
李金榜	37	河北省東安縣	木村商									
宮貴先	21	北周街	農業									
王官貴	38	河北省唐縣	雜貨商									
周慶森	18	南丁村	雜貨商									
合計												

(備考)

本表三八当初受入者、外中途受入者、移出者、死亡者等、一度畢業場に入り、又契約二基、現地より乘船出港シ、モノ一切、合

附表B

個人別勞經過調查表

姓名	年	出生地	職業	前歷訓練	應募	移	入	中間異動	送	返	返	事	考
趙振東	32	山東省	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
齊鳳鳴	30	長清縣	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
賀永祥	38	河北省	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
劉振國	36	深縣	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
王宗心	20	魏村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
康夢秋	22	街橋	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
崇振文	24	中橋	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
李相茂	27	東原縣	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
孫炳起	32	周村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
李修武	27	東原縣	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
張又書	26	張店	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
陶銘財	29	南智	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
張慶林	46	北小街	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
牛仲山	21	石井村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
曹連章	32	深縣	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
陳至奎	20	魏村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
新清崖	26	魏村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
孟憲洲	42	魏村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
張炳林	23	魏村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
田長東	29	魏村	農	農	不	不	不	不	不	不	不	不	不
合計													

(備考)

本表三八號初受入者外中途受入者取中者死亡者等一及平常場二入外又只約二基三現四日乘船出港五七八一

右條部

一九三九年

一九三九年

考

附表B
個人別勞經過調查表

氏名	素	負	移	入	中間異動	送	還	故	事
侯學致	山東省臨清縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
孫秀林	山東省恩縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
王玉蘭	河北省滄縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
楊水牛	河南省南陽縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
盧凌賢	山東省德縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
侯出升	滄縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
邵明玉	河北省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
張福成	河北省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
孫秀文	滄縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
李子昌	西京村	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
楊國全	楊村	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
王鐵南	東光縣	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
邵連春	山東省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
王燕廷	河北省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
高樹明	山東省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
張連科	河北省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
王文元	河北省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
呂寶大	鼓樓	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
鮮福礼	山東省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
王志東	河北省	職業前歷	原籍	上海港	一九二八年八月	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
合計									

(備查) 本表係由本會初受人等之外中途加入者或中途退出者均應註明其理由及日期

未辦金
過辦金
備考

(附表四)

個人別勞經過調查表

氏名	年	出身地	職業前	訓練地	應募集	入	中間異動	送	還	返	事	故
	齡	身	前	地	集	入	異	送	還	返	事	故
胡住三	35	河北省冷縣 文昌街	醫師	冀南	冀南	不日						
李吉祥	20	西	靴工									
張玉清	22	臨山	農業									
徐慶海	40	五	人夫									
紀鳳貴	31	進	同上									
于文和	28	連	同上									
張壽圖	35		同上									
路書恒	24											
郭振山	38											
博文慶	32	鎮										
劉心田	27	連										
張印國	32	連										
張其良	26	連										
高秀華	23	連										
李樹三	37	連										
劉永知	38	連										
李長知	23	新										
項王那	24	何										
徐同勤	26	瓦										
梁錫貴	21	李										
合計												

(備考) 本表... 初受入者... 中途... 入... 出... 送... 還... 事... 故... 備考

1944

(附表)

個人別勞務經過調查表

氏名	素	身地	職業前	訓練	應募	募集	募集	募集	募集	入		中間異動		送		還		留		事		故	
										入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出
張樹起	21	山東省德平縣	行商	行商	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北
趙昇堂	28	河北省東興縣	農業	農業	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北	華北
王玉香	36	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各	各
陳樹海	31	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
金德山	25	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
李秀全	23	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
張采山	26	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
謝金忠	20	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
尹延江	20	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
于道生	17	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
劉忠華	24	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
程貴林	29	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
張培林	30	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
張芳生	36	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
朱光甫	19	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
宮國敷	19	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
姜樹全	18	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
杜振坤	31	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
李志均	26	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
李振山	25	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
合計																							

(備考)

本表一、当初受入者以外中途入者或出者元之者一、度其業場二入り又、契約二基、現地ヨリ乗給出者三、元、一、切、合、ハ、

一九二九年

病死

未開金
尾金
金
金
金

個人別勞務經過調查表

氏名	素負	移	入	中間異動	送	還	留	事	故
竇玉榮	43 河北省東光縣 農業								
李豚林	16 河溝李 農業								
陳秉德	29 城東河溝李 農業								
孔吉和	27 北門外 農業								
下雲恭	32 小園村 農業								
勝義勇	29 後滕莊村 教師								
張春軒	28 南支路 農業								
王德泉	31 李黃莊 農業								
王金亭	22 山東省武強縣 農業								
孫鳳鳴	25 河北省南皮縣 農業								
張王柱	25 河北省南皮縣 農業								
張振國	27 武邑縣 店員								
王希在	30 大羅村 農業								
張樹林	53 武強縣 農業								
郭振騰	23 武邑縣 農業								
杜四芳	19 王營村 農業								
李金声	18 北王政村 農業								
曹士傑	22 小營村 農業								
邢寶貴	22 邢家莊村 農業								
李志正	31 鑄鏡村 農業								

入 中間異動

出 出先

送

還

留

事

故

(備考) 本表一八四年初入者外中途入者由出者死亡者一及事業場二入者又契約三其現地四其給出...

十元

八年

三月

三月

備考

(附表B)

個人別勞務經過調查表

氏名	年齢	性別	籍貫	職業	移入		移出		備考
					年月日	理由	年月日	理由	
杜景山	28	男	河北省衡水縣	農業					
吳錫珍	29	男	武邑縣	印刷廠工					
楊慧民	41	男	武邑縣	印刷廠工					
王寶安	19	男	武邑縣	農業					
李慶雲	21	男	武邑縣	農業					
李維恒	34	男	武邑縣	農業					
栗金凱	21	男	武邑縣	農業					
楊寶元	24	男	武邑縣	農業					
李林	21	男	武邑縣	農業					
李樹芬	24	男	武邑縣	農業					
吳金五	22	男	武邑縣	農業					
任潤德	24	男	武邑縣	農業					
王玉蘭	26	女	武邑縣	農業					
任治波	27	男	武邑縣	農業					
李福煥	21	男	武邑縣	農業					
李炳行	21	男	武邑縣	農業					
蕭柱相	31	男	武邑縣	農業					
袁傑三	30	男	武邑縣	農業					
駱同東	24	男	武邑縣	農業					
李秀華	26	女	武邑縣	農業					
合計									

(備考) 本表は当初受入者、外中途移入者、転出者、死亡者等、一度卒業場に入り、又契約を基、現地に送り、乗船二等客の一切を含む。

故
未詳
備考

個人別勞務經過調查表

氏名	年齢	出身地	職業	訓練地	機器使用方法	上陸港	移入年月	移入理由	移入年月	移入理由
張春網	33	河北省衡水縣	農業	華北農工學校	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
吳書勤	29	吳家莊	商業	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
楊俊傑	26	深澤	商業	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張寶順	26	李莊	商業	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張建業	24	美里	農業	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張大春	29	火園村	農業	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
宋朝素	41	北來	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
楊緒思	25	清河	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
韓連周	43	衡水	行商	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
王鳳五	35	不詳	雜貨	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張大禎	50	火園村	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
王明順	35	南門口	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
明王潔	29	東明街	農業	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
吳錫堂	36	城內	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
孟昭周	47	城東	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
陳立章	29	紅堡	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
趙九成	42	南門口	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張棟正	40	南門口	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張明東	48	南門口	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
張增秀	29	南門口	不詳	不詳	不詳	天津	民國二十一年	逃避	民國二十一年	逃避
合計										

(備考) 本表一八当初受入者外中途取入者、転出者、死亡者、等一及事業場二入り又契約二基于現在口より乘船出港スルモノ一切ヲ含ム

上陸港 天津 逃避理由 逃避 移入年月 民國二十一年 移入理由 逃避 移入年月 民國二十一年 移入理由 逃避

附表B 個人別勞務經過調査表

氏名	素負	職業前歴訓練	移	入	出	送	還	返	留	由	年	月	日	故
袁久居	河北省武邑縣袁家小興村	農業農業三年	草水	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不
苗大昌	山東省臨沂縣	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
董炳印	"	小使	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
李王科	廣東省黑水村	商業	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

(備考) 本表は当初受入者以外中途出入者転出者死亡者等一度事業場に入らず契約を結ばない現況より其の出発地を以て一切を合ふ

故 理由 年 月 日

契約書

昭和十九年二月五日大日本帝國ノ計畫並ニ華北勞工協會ノ勞工供出方ニ基キ華北勞工協會(以下甲ト稱ス)ハ三菱長崎造船所(以下乙ト稱ス)ニ對シ甲ガ供出スル勞工使用ニ就キ左記ノ通り契約ス

第一條 乙ハ昭和十九年(民國三十三年)五月下旬ヨリ向フ二年間ノ期限ニテ甲ノ供出スル勞工ヲ使用スルモノトス

第二條 使用條件ハ別冊三十三年度第八回(普華人勞務者對日供出)實施細目通りトス

第三條 華北又ハ日本ニ於ケル經濟狀勢ノ著シキ變化並ニ豫見シ難キ事情發生ノ為メ既存條件ノ範圍ニテ處理困難トナリタル場合ハ甲乙協議ノ上之ガ調整ヲ圖ルモノトス

右契約確實履行ノ證トシテ本書正副ニ通テ作成シ當事業者記名捺印ノ上各自其一通ヲ保有スルモノトス

昭和十九年四月二十五日

華北勞工協會理事長 趙 琪
三菱長崎造船所所長 小川 嘉樹

被服支給状況

				用		下	ソックス	毛布	〃	〃	常	同	品名	品質	支給数	支給方法	支給時期	備考	
				用	別						服	利							
軍手	禱	手拭	軍靴	ソックス	ソックス	下	ソックス	毛布	〃	〃	常服	同上	品名	品質	支給数	支給方法	支給時期	備考	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一枚	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一八三	一八三	一八三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
ニ月												価格	有						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	否	支給金あり	支給方法						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支給方法						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支給方法						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支給方法						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支給方法						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支給方法						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支給方法						

支給方法
準備人
三ノ

（附表六）

食糧支給量

種類	配給品目	配給		数量		及		数量		数量備考
		数量	回数	数量	回数	数量	回数	数量	回数	
支粉	小麦粉	1	1							
米	米	2	1							
麦	麦	3	1							
粟	粟	3	1							
大豆	大豆	1	1							
豆类	豆类	1	1							
米飯	米飯									
牛豚肉	牛豚肉									
鮮魚	鮮魚									
野菜	野菜									

普通に配る場合
 普通に配る場合の漸次増加分は付録に記す
 支粉 小麦粉 1 1
 米 2 1
 麦 3 1
 粟 3 1
 大豆 1 1
 豆类 1 1
 米飯 (米 1 1)
 牛豚肉 2 1
 鮮魚 1 1
 野菜 1 1

数量備考
 数量
 回数

食用油 三合子

法定傳染病無
 (備考) 現地出登り帰還迄 / 全期間7名

計	病疾																												總數		
	心	肺	膽	肝	脾	胃	腎	腸	結	中	胃	腸	胃	腸	胃	腸	胃	腸	胃	腸	胃	腸	胃	腸	胃	腸	胃	腸		胃	腸
1269																															11
45	1	5																												6	
1314	1	5																												11	
10																														5	
14	1	5																												6	

(附表七) 疾病統計 (罹病場所別・原因別・疾病名稱別人數)
 長崎縣西彼杵郡高島村端島
 三菱高島礦業所端島病院
 罹病場所別
 原因別
 疾病名稱別
 人數

(備考) 現地出茶ヨリ帰還迄ノ全期間ヲ含ム

合計	傷										私	
	私傷											
	合計											

（附表九） 死亡者調査書

新法炭	趙九成	張一英	張增壽	王玉蘭	閻銘斌	陳作卿	死亡者姓名
昭和十九年七月三日	昭和十九年七月七日	昭和十九年七月三日	昭和十九年七月一日	昭和十九年三月廿五日	昭和十九年十月廿九日	昭和十九年十月廿一日	死亡年月日
昭和十九年七月廿三日	昭和十九年六月廿五日	昭和十九年六月廿七日	不詳	昭和十九年三月廿四日	昭和十九年十月廿九日	昭和十九年十月十八日	推定死亡年月日
不詳	不詳	不詳	不詳	入送途中 千早口 死	落硬		原因
急性 心臓麻痺	咽喉炎	肺炎	肺炎 硬化症	頭蓋骨 骨折	頭蓋骨 骨折	肋骨 骨折	疾病 及 他
死即日	後二日 死亡	死七日 近口 胸腹部 著	増悪 死	死	死	受傷後 左大腿下 骨骨折 三寸五寸 骨折 死	経過
急性 心臓麻痺	急性 心臓麻痺	肺炎	肺炎 硬化症	頭蓋骨 骨折	頭蓋骨 骨折	肋骨 骨折	死
							死
							死
							死
公傷			私傷			公傷	公傷
五日	二日	三日	五日	五日	五日	五日	五日
						有	

長崎縣西彼井郡高井村
三菱方面礦業所瑞島病院

死亡者顛末書

端島坑務課

死亡者名	原發症年月日	死亡年月日	場所	原因	部位	顛末	担当係員
新清産	昭和七年三月	同上	第六層下捲立	心臓麻痺	—	<p>華人同僚三名ト共ニ硬積作業ニ就業中突ニ酸素分不洩リ新ハ嘔吐ヲ催シ間ニ無ク死亡セリトナリ</p>	折笠健吉
邢室山比	昭和七年三月	同上	第三層下	心臓麻痺	—	<p>日人指導員並ニ華人同僚八名ト材料搬入中坑道ニ於テ顛倒シ苦痛ヲ訴ヘタルニ依リ人工呼吸ヲ行ヒ酸素吸入ヲ施シ醫師ハ坑ヲ求メ強心劑ヲ注射ヲ行ヒタルモ遂ニ死亡セリ</p>	高比良春重
昭和一	昭和七年三月	同上	同上	同上	同上	<p>同僚九名ト炭車押作業ニ従事中過リテ炭車ノ角ニ挟</p>	

王玉蘭	楊慧民	閻銘賦	陳作鄉
昭 和 二 五 分	昭 和 二 五 分	昭 和 二 五 分	一九九六 一九〇三
全上	全上	全上	四坑一坑
第二堅坑	第三盤下	第五盤下 轉車坑道	炭車
墜落	心臟 麻痺	落硬	下腹部
全身 打撲		全身	
休養時充分腫脹也天遊心 ク一後端ニアリテ假腫墜 落セルモノナリ	日人指道員並ニ華人同僚八 名上坑木搬入作業中松ニ於テ 苦痛ヲ訴ヘシタメ坑道ニ搬出 人ニ呼吸ヲ施シ醫師人坑ヲ求 メ強心劑ヲ注射ヲ行ヒ九七遂ニ 死セリ	華人同僚三名上坑ニ掘進後山 トシテ就業シ職災者作業 現場ヨリ約八米手前ニ墜落 用ホト運搬道中突然天 井破約五立方米崩落シ不幸 之ヲ救トナリ直ニ救出人工 呼吸ヲ施シ遂ニ蘇生セタ 死セセルモノナリ	コレ足ヲ傷メシ爾後入院 加療中敗血症ヲ起シ入院後 二十六日ニ死セラルナリ
木場善之助	高比良春重	赤城松之次	藤田虎一

診斷書

陳作鄉

四十五年

右、昭和十九年九月二十六日午前十一時墮架三系床院（四坑底）於テ炭車ニ墜ニテ負傷者ト云フ
左ノ現症ヲ呈ス

現症及經過負傷部位一、左下腿複雜骨折左下腿上々部ニ於テ基底ヲ下方ニ有スル三再
形ノ辨狀挫創アリ全長八極深サ骨膜ヲ剝離又同中央部前傾ニ於テ縱ニ長ク四極
創底ニ於テ怪骨々折ス該部約手掌大ノ部分皮下出血ノ爲メ波動ヲ呈ス

ニ右下腿擦過創即時手當ヲ加ヘ上創面ハ防腐縫合處置ヲ加ヘ下創面ハ防腐副木固
定ヲ加ヘ入院加療經過良好ナラス創面化膿漸次上方ニ蔓延ノ傾向アリ致底保存見
込メ十月十五日腰椎麻醉下ニ左大腿下四分一部ヨリ切断ス其後創面經過良好ナリシニ
高熱弛張ニ薦骨部褥瘡併發衰弱加ハリ強心剤リニゲル葡萄糖注射ヲ反覆シタルモ
奏効メ十月三十一日午前七時十五分遂ニ死ス



株式會社

高島礦業所

右及診斷候也

昭和十九年十月二十二日

三菱高島礦業所瑞島病院

醫師

川副

元考



屍體檢案書

閻 銘 財

二十八年

右、昭和拾九年拾月拾日午前八時四拾分瑞島病院屍室に於て渡辺巡查部長
立會し屍體檢案スルトル如シ

屍體處見着衣(黒地綿木綿作業衣黒毛糸メリヤス履巻白地木綿禪脚絆地下
足袋)及携帶品(日本手拭帽子ヘットラング電池ソックス革バンド多腰部ニ纏テ六粉

炭灰塵ニ染レ且ツ湿润ス死後強直ニ下顎關節外總テ關節ニ著ク存在シ死斑
ハ後頭部ヨリ背腰部大腿後面ニ著ク存在ス頭部以上顔面結膜口唇齒血暗

紫色ヲ呈シ瞳孔中等度ニ散大ス鼻腔口腔血液様物ヲ充テシ体位ヲ變換スルカ胸
部ヲ壓スルハ鼻腔ヨリ流出ス

創傷部位ハ前額右側髮際ニ於テ横ニ長ク約五釐深ク一部骨膜ニ達スル挫創アリ
骨折ヲ認めず創面ヨリ暗赤色血液線狀ヲ流シ流出シ凝固性ニ乏シハ右觀骨体部



三菱礦業
株式會社

高島礦業所

二於手約小指頭大不正形、性創アリ、胸部前面兩側肩胛關節上側、約手掌大不正形、
一上皮膚擦過創、右前胸部鎖骨下ヨリ第五肋骨部及右上臂前面、直リ不正三再形皮不
一骨盤血ヲ認ム、四胸部後面右季肋部ニ於テ、横ニ長サ約貳拾釐幅約七釐、表皮擦
過皮下溢血及壓痕ヲ認ム、右肩胛關節上方ヨリ右肩胛骨部、直リ上皮膚擦過創
及皮下溢血ヲ認ム、右後腋窩線第七肋骨部ニ約丹指頭大、上皮膚擦過創ヲ認ム、
脊柱肋骨等ニ骨折ヲ認ム、

五腹部ニ腹ニ稍膨滿セル外著変ヲ認ム、

六右足關節(脚距關節)外側脱臼ヲ認ム、
致死傷前記處見依リ察スルニ右石標物、為メ胸部ヲ前後ヨリ強壓呈レ呼吸不
能為メ窒息ニヨリ死セリト察セル、死後約九時間餘ヲ經過シ、右ト推定ス、

右檢案候也

昭和拾九年拾月拾日

三菱高島礦業所瑞島病院 醫師 川 副 元 考



屍體檢案書

王 玉 蘭

二十六年

古八昭和二十年二月二十四日午後九時五分端島病院屍室ニ於テ渡辺巡査部長立會上屍體檢案スルト左ノ如シ

屍體處見着衣(綿木綿)作業衣(下)綿入(右)手ヤシ及木綿(右)ツノ藁(木)國防色長ズボン(脚)祥地下足袋ヲ裝ヒ手拭代用ニ長クニ尺位(綿木綿)ヲ頭部ニ掛ケ前額部ニ緩ク結ビアリハ總ニテ湿润シ且ツ炭塵ニ汚染セラル

顔面(右)上肢(肘)幹ノ處々ニ炭塵ヲ附着シ且湿润ス其他顔面(右)前膊以下血液ヲ附着ス死後強直(下)頸(肉)節及指趾ノ小(肉)節ニ僅カニ存在ス死後未ダ發生セズ結膜(口)唇蒼白色ヲ呈シ瞳孔(中)等度ニ散大シ虹(門)弛緩ス

創傷部位一(頭)蓋(複)雜粉(碎)骨(折)前額(左)側ヨリ右(耳)上部ヲ繞リ外後頭(結)節部ヨリ軟部(裂)創アリ前額(骨)頸(蓋)右(半)側ハ粉(碎)セラレ(骨)片(二)部ト共ニ(大)腦



三菱礦業
株式會社

高島礦業所

小體、殆ト全部飛散シ、體底ノ骨面ヲ露出ス

二、左足點後三分一部中央ニ於テ約示指頭大ノ塵孔狀挫創アリ、創底於テ跗骨複

雜骨折ヲ認ム

致命傷第一創ニ爲メ即死シタルモ、ニシテ死後約貳時間ヲ經過シタルモト認ム

右檢案候也

昭和貳拾年貳月貳拾四日

三菱高島礦業所瑞島病院

醫師

川副

元孝



死亡診斷書

死亡者ノ氏名	張增壽
死亡者ノ性別	男
死亡者ノ生レタル日	
死亡者ノ職業	
職業	家計ノ主ナル職業
死亡ノ原因	病死 腎臟炎兼肝臟硬化症
自殺ノ手段	自殺以外ノ變死、中毒、種類
發病ノ日	昭和九年 月 詳日
死亡ノ時	昭和九年 七月 壹日 午前 五時 拾分
死亡ノ場所	長崎縣西彼杵郡高濱村南越名一四〇九

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭和九年

七月 壹日

醫師

諾隈七郎

死亡診斷書

死亡者ノ氏名	張大禎	
死亡者男女ノ別	男	
死亡者ノ生レタル日	四拾九年	
職 業	死亡者ノ職業 石炭礦業坑夫 家計ノ主ナル職業	
死亡ノ原因	病死 病名 膽囊炎 自殺 手段 自殺以外ノ變死、中毒、種類	
發 病 ノ 日	昭和拾九年 六月貳拾七日	
死 亡 ノ 時	昭和拾九年 七月 參日 午後參時參拾分	
死 亡 ノ 場 所	長崎縣西彼杵郡高濱村南越名一四〇九	

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭和拾九年 七月 四日

醫師 川副元彦



死亡診斷書

死亡者ノ氏名 趙九成

死亡者男女ノ別 男

死亡者ノ生レタル日 四拾壹年

死亡者ノ職業 石炭鑛業坑夫

職 業 家計ノ主ナル職業

病死ノ病名 マラリア兼氣管支肺炎

死亡ノ原因 自殺 手段

自殺以外ノ變死、中毒、種類 自殺以外ノ變死、中毒、種類

發病ノ日 昭和拾九年六月貳拾日

死亡ノ時 昭和拾九年七月七日午前零時參拾分

死亡ノ場所 長崎縣西彼杵郡高濱村南越名一四〇九

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島鑛業所病院端島醫局

昭和拾九年七月七日 醫師 諸隈七郎

屍體檢案書

新 清 産

二五年

右昭和拾九年七月貳拾貳日平常通一ノ夕食ノ攝入ハ際幾分氣分不恢ヲ訴ヘ
 タルモ大シクトモ夕午後七時過ギ入坑作業同午後十時頃配給ノマントク(同食)ヲ普通ニ
 攝食セシケ同貳拾參日午前貳時半頃作業場附近ノ風管ニ腰掛ケ休憩セルヲ同僚ガ認
 ム聲掛ケタルモ應答ナク氣分更ニノ模様ナリシ爲其儘現場ニ靜臥セシメ(其際意圖吐吐
 リト云フ)所屬中隊長他場所ヨリ呼ビ寄せ看侍セシメ一方出坑セシムベク準備中午前參
 時半頃死シ同四時半頃出坑セシタリト云フ

同午前七時半同人宿舎ニ於テ渡辺巡査部長立會ニ上屍體檢案スルト左ノ如シ
 屍體處見看衣(國防色小倉地ズホノ脚絆地下足袋)ハ粉灰灰塵ヲ附着シ其他顔面両前
 胸胸部等露出部分ニ灰塵ヲ附着ス顔面ハ黒地綿木綿ノ作業衣ニテ覆ヒリ之ヲ
 除去スルニ作業衣ニ處クニ吐物ヲ附着ス(吐物ハ夕食及午後拾時頃攝取セシ食物ノ残片ニ處ク



三菱製鉄
株式會社

高島礦業所

ニ少汗血液ヲ混シ紅幹殊ニ喉高腹間ハ尚小體温僅ク残存シ死後強直下頸屈伸外肢ヲ
 關節ニ著シク存在シ死眼ハ項部ヨリ臂部ヨリ發生シシテアリ顔面ニ稍強直血状ヲ呈シ口
 唇蒼白色ヲ呈シ外鼻孔口辺左眼辺等ニ部乾固品吐物ヲ附着シ前記吐物外鼻孔口腔ニ
 泡沫含有血漿様物ヲ充タシ胸部ヲ壓スルニ体位ヲ側臥ロシムルニ鼻口ヨリ溢出ス角膜稍腫
 呈毛腫孔ヲ透見シ得テ中等度ニ散大ス肛門弛緩シ脱糞ス(スルニ附着シ糞便ハ帶黄褐色
 ノ有彩普通便)其他全身各部ニ創傷ノ形跡ヲ認メス
 致死傷前記處見ニ據リテ按ズルニ作業中突然心臓麻痺ヲ起シ死ニシタルモト察セラレ吐物
 ニ許シ血液ヲ混シタルハ急性心臓衰弱ニ爲シ肺血ヲ充テ急激肺水腫ヲ起シ鼻
 口腔ヨリ溢出セル泡沫含有血液混シタルモノト察セラレ死後四時間餘ヲ経過シタルモノト推
 定ス

右檢案候也

昭和拾九年七月貳拾參日

三菱高島礦業所瑞島病院醫師

川副

元考



屍體檢案書

邢寶 亮

三十二年

右ハ昭和拾九年八月拾七日午後六時貳拾分瑞島病院屍室ニ於テ渡辺巡查部長
立會ニ上屍體檢案スルコトナリ如シ

屍體ニ見著衣(地下足袋脚絆)及全身粉炭塵ヲ附着シ且テ濕潤スニ前額部

一般ニ鬱血シ帯赤綠色ヲ呈シ結膜口唇鬱血シ再膜稍溷濁シ瞳孔中等度ニ散

大ニ體温腋窩股間ニ尚存在スニ死後直ニ認メス

背部臀部大腿後面ニ且テ暗赤色ニ鬱血スニ死後末夕發生セズ肛門弛緩シ脱糞ス

其他全身各部ニ創傷ノ形跡ヲ認メス

致死傷上記處見ニテハ死因ヲ断定スルコト困難ナルモ傍人ノ供述(常時水平坑道掘進

作業ニ從事シテハ坑道掘進ノ要アリテ日人指導員及同僚八名ト共ニ數回ニ

互リ拂傾斜ニテ不慣レル坑道掘進作業ニ從事セシ事カ)ヨリ察スルニ疲勞ノ結果



三菱
株式會社

高島礦業所

心臟麻痺ヲ誘發シ死シタルモノト推察セラレ死後約貳時間ヲ經過シタルモノト推定ス

右檢案候也

昭和拾九年八月拾七日

三菱高島礦業所瑞島病院

醫師 諸隈 七郎

屍體檢案書

場 慧 民

四十年

右昭和十九年八月十七日午後六時三十分端島病院屍室に於て渡辺巡查部長之會
ノ上屍體檢案スルトル如シ

屍體處見着衣(地下足袋脚絆)及全身粉炭灰塵ヲ附着シ且濕潤不顔面結膜口唇齶

血ニ再膜稍潮濕シ瞳孔中等度ニ散大ス死後強直ニ下頸關節膝股關節ニ存在ス上肢ニ認

メ體温腋窩股間ニ尚存在ス死斑ニ未タ發生ス肛門弛緩セテ後頭部中央ニ於テ約鷄

卵大ノ腫瘤ヲ認ム創傷部位(一)前胸部及右腸骨部ニ表皮ノ擦過創ヲ認ム

(二)背部ニ臀部ニ亘リ散在性ノ表皮ノ擦過創ヲ認ム

致死傷 上記ノ處見シテハ死因ヲ断定スルトト困難ナルモ傷人ノ供述(當時水平坑道掘進作業ニ

從事シタルモ柵崩落急遽復舊ニ要アリテ日人指導員及同僚八名ト共ニ數回ニ亘リ柵傾斜ニ

不慣レル坑木運搬作業ニ從事セシ爲カ)ヨリ察スル疲勞ノ結果心臟麻痺ヲ誘發シ死亡シ

タリモノト推察セシレ死後約三時間ヲ經過シタリモノト推定ス

右檢案候也

昭和十九年八月十七日

三菱高島礦業所端島病院

醫師 諸隈七郎

死亡診斷書

死亡者ノ氏名	張 玉 柱
死亡者男女ノ別	男
死亡者ノ生レタル日	二十五年
職 業	死亡者ノ職業 石炭礦業坑夫 家計ノ主ナル職業
死亡ノ原因	病 死 病 名 急性肺炎 自殺 手段
發 病 ノ 日	昭 和 貳 拾 年 參 月 貳 拾 四 日
死 亡 ノ 時	昭 和 貳 拾 年 參 月 參 拾 日 午 前 拾 壹 時 貳 拾 分
死 亡 ノ 場 所	長 崎 縣 西 彼 杵 郡 高 濱 村 南 越 名 一 四 九

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭 和 貳 拾 年 參 月 參 拾 日

醫 師 川 副 元 彦



死亡診斷書

死亡者ノ氏名	吳錫堯	
死亡者ノ性別	男	
死亡者ノ生レタル日	昭和六年	
職 業	死亡者ノ職業	家計ノ主ナル職業
死亡ノ原因	病 死	病 名
發 病 ノ 日	自殺以外ノ變死、中毒、種類	慢性腸炎
死亡ノ場所	昭 和 二 十 年 參 月 九 日	自殺 手段
	昭 和 二 十 年 四 月 拾 二 日 午 后 二 時 五 拾 分	
	長崎縣西彼杵郡高濱村南越名二四〇九	

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭和二十年

四月拾拾日

醫師

鈴木幹生

死亡診斷書

死亡者ノ氏名	鄭龍雲	
死亡者男女ノ別	男	
死亡者ノ生レタル日	貳拾年	
職業	死亡者ノ職業	石炭礦業坑夫
	家計ノ主ナル職業	
死亡ノ原因	病死	病名 急性肺炎
	自殺	自殺以外ノ變死、中毒、種類
發病ノ日	昭和貳拾年	六月 四日
死亡ノ時	昭和貳拾年	六月 拾日 午前零時參拾分
死亡ノ場所	長崎縣西彼杵郡高濱村南越名一四〇九	

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭和貳拾年 六月 拾日

醫師 鈴木幹生

死亡診斷書

死亡者ノ氏名	路書垣
死亡者ノ男女ノ別	男
死亡者ノ生レタル日	貳拾四年
職業	死亡者ノ職業 石炭礦業坑夫 家計ノ主ナル職業
死亡ノ原因	病死 病名 心臟麻痺 自殺 手段
發病ノ日	昭和貳拾年 八月貳拾八日
死亡ノ時	昭和貳拾年 八月貳拾八日 午後七時四拾五分
死亡ノ場所	長崎縣西彼杵郡高濱村南越名一四〇九
自殺以外ノ變死、中毒、種類	

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭和貳拾年

八月貳拾九日

醫師鈴木幹生

診断書

王云起

三十一年

右、昭和三十年十月六日朝来何等異常ナラ午後一時頃ヨリ他ノ寮生一同ト共ニ
映画観覧同ニ時半頃歸寮ヨリ同午後四時過ギ頃耐夫ガ屋外ニテ竊焼ノ操
作ヲ傍觀シツツアリガ同四時三十分頃突然仰向ケニ卒倒シ人等不省トナリタルヲ
同耐夫及附近ニ居合セタル同僚ニ介補セラレ担架ニ同四時四十分病院ニ收容
セ、現症多クス

現症及経過 收容當時顔面稍蒼白口唇指端チアローゼヲ呈シ呼吸淺表不
正脈搏頻數微弱且ツ不整殆ド觸知ス口腔前庭ニ泡沫ヲ容シ上下唇間
ヨリ溢出ス心音不正胸部一般ニ喘鳴ヲ聽取シ下腿ニ輕度ノ浮腫ヲ認ム心
性心臟衰弱ノ診斷ニ極力ノ手當ヲ加ハタルニ奏効ス同午後五時遂ニ死
セス



三菱礦業
株式會社

高島礦業所

右方診断候也

昭和三十年十月七日

三菱高島礦業所瑞島病院

醫師

川副

元彦



死亡診斷書

死亡者ノ氏名	王 云 起	
死亡者男女ノ別	男	
死亡者ノ生レタル日	三十一年	
職 業	死亡者ノ職業 石炭鑛業坑夫 家計ノ主ナル職業	
死亡ノ原因	病 死 病 名 急性心臟麻痺 自殺 手段	
發 病 ノ 日	昭 和 貳 拾 年 拾 月 六 日 午 后 四 時 貳 拾 分	
死 亡 ノ 時	昭 和 貳 拾 年 拾 月 六 日 午 后 五 時	
死 亡 ノ 場 所	長崎縣西彼杵郡高濱村南越名二四〇九	

右證明候也

長崎縣西彼杵郡三菱高島礦業所病院端島醫局

昭 和 貳 拾 年 拾 月 七 日

醫 師 川 副 元 彦



(附表一) 不具廢疾者調書

者氏名	原因發生年月日	不具廢疾年月日	場所	原因	種類	箇所	程度	公傷別	慰籍料支給額	診斷書有無	備考
張連德	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	坑内		不具	右膝部	輕度	公傷	一〇円	有	
田長棟	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
李王科	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
王富貴	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
杜振亞	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
王紅德	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
嚴陸頭	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
張寶貞	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
宗朝壽	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	"		不具	右膝部	輕度	"	"	有	
王德金	昭和十九年一月一日	昭和十九年一月一日	坑外	燒傷	不具	左眼視力障害	輕度	私傷		有	

長崎縣西彼杵郡高嶺村端島
三菱高島礦業所端島病院

不具表 疾在顯本書

將與 按務課

杜振亞	王富貴	李玉科	田長棟	張連德	不具表
昭和 二〇三・一〇	昭和 二〇一・一五	昭和 元三三九	昭和 元三三〇	昭和 元八二〇	原因發生 年月日
昭和 二〇六・二	昭和 二〇二・二三	昭和 二〇九・一〇	昭和 二〇二・二四	昭和 元二一三	不具表 年月日
五盤下 塔	坑口	二坑底	五盤下 九二口又	三盤下右 八夕口又	場所
炭車	定車	墜落	炭車	落破	原因
不具	不具	不具	不具	不具	程度
輕度	輕度	中程度	輕度	輕度	部位
右手 百三指	右腕部 指能部	右下肢	右膝部 右下腿	右膝部	顯
空車中 取力三三車輪	空車中 車上車下二疾二右傷	作業終了三出坑ノ際 昇坑機ニ乗ラニトシテ 足ヲ踏ミニラニ墜落 負傷七九七〇十日	破函押出中 未ニ化破函ニ乗ラニ疾 中ニ再ニ降下ニ疾マシ 負傷七九七〇十日	右腕部時 原因不明 同化破函七九七〇十日 療ヲ受テ七九七〇十日	末
久保盛吉	坂本依行	米澤義盛	久保盛吉	吉永善次	担当者 氏名

	王全德	張寶顏	宋朝壽
	船和 九八二〇	船和 二〇一	船和 二〇五
	船和 二九二五	船和 二〇二七	船和 二〇六
	四盤下 左四〇口	三盤下 右九口	中四盤下 左六口
	落破	蒸破	炭車
	不具	不具	不具
	輕度	輕度	輕度
	右五 指赤 以下 欠	右五 指赤 以下 欠	右五 指赤 以下 欠
七九七ノナリ	荒垣作葉中天井 リノ止六破ニテ負傷 七七七ノナリ	荒垣作葉中蒸破ニテ 負傷七七七ノナリ	坑木運搬機中坑木 上縁一板レ 負傷七七七ノナリ
	森田繁夫	森田繁夫	森田繁夫

診 折 書

張 連 德

四 十 三 年

傷 名 右 下 腿 日 創 二 繼 奔 せ 皮 下 蜂 窩 織 炎

初 診 日 昭 和 十 九 年 八 月 二 十 日

初 診 當 時 處 見 及 經 過 初 診 當 時 右 膝 蓋 下 方 約 十 二 釐 一 部 二 於 之 約
母 指 頭 大 化 膿 創 面 有 之 約 一 週 前 硬 多 受 傷 其 右 放 置 之 增 悪 骨 下 稱 之
創 面 中 心 ト シ テ 膝 部 ヲ 同 下 腿 中 央 部 二 具 奔 赤 腫 脹 不 即 時 手 當 ラ 加
通 院 加 療 經 過 良 好 多 再 三 切 開 手 術 要 之 治 癒 遷 延 同 年 十 一 月 三
日 尤 後 貽 症 以 之 治 癒 矣

後 貽 症 右 膝 蓋 部 膝 周 節 內 外 側 及 同 下 腿 上 部 癢 痕 但 之 膝 周 節 機
能 二 障 害 ヲ 認 不 矣

治 癒 年 月 日 昭 和 十 九 年 十 一 月 三 日

三 菱 礦 業

高 島 廣 業 所

右及診斷候也

昭和三十年十月四日

三島高島礦業所 三島病院

醫師 川副 元考



備考華人勞務者災害扶助規程第三條小項ニ該當否ト認ム

診断書

田長棟

三十八年

負傷部位 右膝脛部挫創同右大腿内側ヨリ腓腸部ニ亙リ打撲擦過創

負傷月日 昭和十九年十二月十日

負傷當時處見及經過 負傷後即時来院當時右大腿中央部内側ヨリ同

腓腸部ニ亙リ一般ニ腫脹硬結緊張シ散在性ニ上皮擦過創アリ右膝脛部

部腓腸筋上内側ニ於テ約小兒手掌大不正三再形挫創アリ深ク肋層ニ

達ス即時手當ヲ加ヘ防腐縫合通院加療創面一部化膿シ第一期癒合ヲ營

ム能ハカリシモ其後ハ良好ニ經過シ本年一月十四日迄後胎症ヲ以テ治癒ス

後胎症ハ右膝脛部ニ於テ肋層ニ癒着セル瘻痕

ニ右腓腸筋軽度ノ萎縮腓腸筋最大田(右三上種)及之ニ因テ

軽度ノ跛行

三菱礦業株式會社 高島礦業所

治愈年月日 昭和三十年一月十四日

右及診断候也

昭和三十年十月四日

三菱高島硬業所瑞島病院

醫師 川副

元考



備考 華人勞務者災害扶助規程第三條の項ニ該當スルモノト認め

診斷書

李 玉 科

二十六年

負傷部位一右臂部及股關節部並打撲傷

二左膝關節後方脫臼

三右背部及腰部並打撲傷(右肩胛線於第九十肋骨骨折並見)

負傷月日 昭和十九年十二月十九日

負傷當時處見及經過 負傷後即時病院に收容當時第一創部右臂部より同股關節部より一一般に腫脹し疼痛を為患肢機能制限あり

第二創左膝關節部後方脱臼より第三創部右肩胛下部より腰部より散在性表皮擦過創あり輕度腫脹に右肩胛線に於て第九十肋骨骨折に右側胸部より後下部より皮下気腫を觸知り以上損傷を為し意識明瞭なし顔面稍蒼白色ヲ帶び脈搏九十六至緊張呼吸稍促進三〇至ヲ算ス

即時手術ヲ加ヘ入院加療經過良好第三創部ハ障害ヲ點サスニテ治療シ
本年三月六日退院右股關節ノ步行痛機能障害ヲ訴ヘ引續キ本年五月
十日ニテ通院加療九、後始症ヲ以テ治療ス

後始症一右股關節輕度ノ屈曲機能制限及右下肢輕度ノ短縮(棘蹠線ヲ
測定スルニ九八・八五)及之ニ因ル輕度ノ跛行

治療年月日 昭和三十年五月十日

右及診斷候也

昭和三十年十月四日

三菱高島礦業所瑞島病院

醫師 川副 元考



仰考華人勞務者災害扶助規程第三條①項ニ該當スルモノト認ム

診斷書

王富貴

三十八年

負傷部位 左尺骨上三分一部皮下骨折及同時關節挫傷

負傷月日 昭和二十年一月五日

負傷當時處見及經過 負傷後即時來院當時左肘關節部ヨリ左

前膊中央部ヨリ一般ニ腫張シ尺骨上ノ下部ニ於テ皮下ニ骨折ス

即時手當ヲ加ヘ通院加療二月二十三日左ノ後貽症ヲ以テ治癒ス

後貽症 (一) 左尺骨骨折癒合部骨肥厚

(二) 同時關節ノ約九十度ヲ限度トシテ屈曲機能障礙

治癒年月日 昭和二十年二月二十三日

右及診斷候也

昭和二十年十月四日



株式會社

高島礦業株式會社

三菱高島礦業所高島病院

醫師

川副元彦



備考 華人勞務者災害扶助規程第三條小項三該當スルモノト認ム

診断書

杜振五

三十六年

負傷部位 左第三指挫創

負傷月日 昭和二十年三月十日

負傷當時處見及經過 負傷後即時來院當時左第三指第二節小指側ヨリ指尖ニ亘ル挫創アリ第三指骨中央部以下掌面軟部ハ腫ニ達スル深サニ於テ欠損ス創面不潔炭塵ニ汚染浸潤スル即時手當ヲ加ヘ通院加療經過不良手掌ニ蔓延セル腫鞘炎繼發再三切開手術ヲ要シ治療著ク遷延六月ニ日左ノ後胎症ヲ以テ治療ス後胎症 左手掌ヨリ第三指掌面ニ亘ル殺痕率縮又之ニ因ル患指屈曲位蛋直

治療年月日

昭和二十年六月二日

三菱礦業

司

司

廣

長

斤

昭和三十年十月四日

三島高島礦業所 三島病院

醫師 川副元彦

備考 華人勞務者災害扶助規程第三條の項に該當するに認めらるる

診斷書

王 缸 德 三十六才

負傷部位 右第四五指挫創

負傷月日 昭和十九年八月二十日

負傷當時處見及經過 負傷後即時末院當時右第五指爪甲根部より軟部欠損第三指骨裸出尖端一部骨折第四指第三節背面に於て約小指頭大ノ上皮欠損ヲ認め即時手當ヲ加へ第五指末節より雜斷第三指第四指ハ防府處置講之其後通院加療九月二十五日迄後胎症ヲ以テ治癒ス

後胎症 右第五指末節以下欠損

治癒年月日 昭和十九年九月二十五日

右及診斷候也

昭和十九年十月四日

三菱高島礦業所 瑞島病院

三菱礦業 高島礦業所

診断書

巖 陸顯 三六才

負傷部位 左第三指第三指骨複雜骨折

負傷月日 昭和十九年九月三十一日

負傷當時處見及經過 負傷後即時未院當時左第三指骨中央部ニ於テ軟部

骨共ニ挫潰セシ僅カニ母指側軟部一部及腱ニヨリ連繫セル創面不潔炭塵ニ汚

染浸潤見即時手當ヲ加ヘ殘存セシ第二指骨一部ヲ切除シ創面縫合ヲ加ヘ其後通

院加療十一月十日左後指症ヲ以テ治愈ス

後指症 左第三指中央部以下欠損

治愈年月日 昭和十九年十一月十日

右及診断候也

昭和二十年十月四日

三菱高島礦業所端島病院



三菱礦業
株式會社

高島礦業所

醫師

川副

元考



備考 華人社務者災害扶助規程 第三條 小項 三 該當スレトモ 認ム

診断書

張 宝 真

二十五才

負傷部位 右第三指挫創

負傷月日 昭和二十年一月十二日

負傷當時處見及經過 負傷後即時未院當時右第三指末節部背面より
指尖より裂創あり創底は第三指骨粉砕あり即時乎當り加へ末節以下到
底保存見込ふ末節部より切除創面縫合其後通院加療二月二十七日迄
症を以て治癒不

後始症 右第三指末節以下欠損

治癒年月日 昭和二十年二月二十七日

右及診断候也

昭和二十年十月四日



三菱鑛業
株式会社

高島鑛業所

三菱高島礦業所瑞島病院

醫師 川副 元考



備考 華人勞務者及害扶助規程第三條(一)項之該當者として認め